

## 5月10日地質の日第5回事業のご紹介

### — 全国の博物館等で地質の日のイベントが多数行われます —

平成24年 月 日

一般社団法人日本地質学会

地質の日事業推進委員会\*

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

一般社団法人日本地質学会（以下、日本地質学会）は、5月10日の「地質の日」を記念して、特別イベントを開催いたします。

#### ■地質の日記念 街中ジオ散歩 in Tokyo 「身近な地層や岩石を知ろう」

日 時：2012年5月13日（日）10時から16時 雨天決行（予定）

場 所：東京都千代田区界隈（丸の内，日比谷，三宅坂，永田町，一番町）

主 催：一般社団法人日本地質学会，一般社団法人日本応用地質学会

案内者：中山俊雄氏（独）防災科学技術研究所，奥村興平氏

趣 旨：身近な地質とその地質に由来した地形についてや，地質と地形を利用してきた先人から現在の私たちまでの営みを，春の清々しい空気の中でのんびり歩きながら，ベテラン案内者からの興味深い説明を聞き，楽しく学ぼうという企画です。

(<http://www.geosociety.jp/name/content0087.html>)

#### ■惑星地球フォトコンテスト 展示会 （添付資料—1）

○第2回入選作展示

日 時：2012年4月28日（土）～5月13日（日）

場 所：東海大学自然史博物館（静岡市清水区三保 2389）

(<http://www.shizen.muse-tokai.jp>)

○第3回入選作展示

日 時：2012年4月21日（土）～6月3日（日）

場 所：千葉県立中央博物館（千葉市中央区青葉町 955-2）

(<http://www.chiba-muse.or.jp/NATURAL/>)

その他、5月10日の地質の日を記念して、5月10日（木）前後に全国の自然史系博物館を中心に多数の記念イベントが開かれます（添付資料—2、3）。

昨年3月11日の東日本大震災は、私たちの社会に「地球に関するリテラシー」が不足していることを明白に示しました。地質の日のイベントは、一般市民の方々が”地”球の性”質”（地質）を知るための絶好の機会になると考えます。

4月20日現在で、全国26都道府県の全国35機関・団体に76イベントが行われる予定です。今後も増える予定です。

地質の日事業推進委員会の主要メンバーである日本地質学会は、街中ジオ散歩 in Tokyo 「身近な地層や岩石を知ろう」徒歩見学会を行うほか、各支部において、講演会、イベントを予定しています。

## ■ 概 要 ■

日本地質学会が主要メンバーである「地質の日」事業推進委員会\*1では、全国の博物館等を拠点に行なわれる5月10日(木)「地質の日」の第5回記念事業を推進しています。

「地質の日」は地球生命史、地球環境、自然災害を理解するうえで重要な地質について、より身近に知っていただくために、2007年に地質関連学会・機関が発起人\*2となり、5月10日(木)を「地質の日」と決めました。昨年は、全国44の機関・団体で78のイベントが開催され、参加者数合計(71機関から回答)は269,819人に達しました。その様子は、マスコミで数多く取り上げられ、一般の方々が社会の基盤である「地質」に対する理解を深める第一歩になったと考えております。

昨年は、世界ジオパークに室戸岬が認定され、地質に対する社会の認知はますます高まりつつあります。一方で3月11日に発生した東日本大震災は、私たちの社会に地震、津波、液状化、斜面崩壊などの地球の現象に関するリテラシーがまだまだ不足していることを明白に示しました。地質の日のイベントは、一般市民の方々が”地”球の性”質”(地質)を知るための絶好の機会です。

「地質の日」事業推進委員会では、本年も5月10日(木)を中心に行われる「地質の日」事業をさらにいっそう推進いたします。今年の第5回の記念事業は、すでに4月20日現在で、全国35機関・団体で76イベントが行われる予定です。

最新のイベント情報は、地質の日ウェブサイト\*3に常時更新して掲載しておりますので、ぜひご参照ください。

\*1 事業推進委員会：日本地質学会、日本応用地質学会、日本情報地質学会、日本古生物学会、資源地質学会、日本堆積学会、日本第四紀学会、(独)産業総合技術研究所地質調査総合センター、(独)北海道立総合研究機構地質研究所、全国科学博物館協議会、(独)国立科学博物館、日本科学未来館、神奈川県立生命の星・地球博物館、(社)全国地質調査業協会連合会、(社)東京地学協会、(NPO)地質情報整備・活用機構、日本鉱物科学会、(NPO)日本ジオパークネットワーク(順不同)(2012年4月現在)

\*2 発起人：日本地質学会、日本応用地質学会、日本情報地質学会、日本古生物学会、資源地質学会、(独)産業技術総合研究所地質調査総合センター、(独)北海道立総合研究機構地質研究所、神奈川県立生命の星・地球博物館、(社)全国地質調査業協会連合会、(NPO)地質情報整備・活用機構(順不同)

\*3 地質の日 WEB サイト <http://www.gsj.jp/geologyday/2012/index.html>

## ■ 地質とは ■

私たちの住んでいる大地は、地層、岩石、土壌などでできています。これらの物質やその性質のことを「地質」と呼びます。人間に例えれば、地球の表面を覆っている服(植生)をめくった体そのものと考えて良いと思います。

地質は、エネルギーやさまざまな材料の素となる鉱産資源や温泉のように豊かな恵みをもたらします。また、地質を知ることによって、構造物の基礎やさまざまな地下施設の安全な設計をすることができます。

さらに、地質を理解することは、地震、火山噴火、斜面崩壊などの発生メカニズムを理解し、災害

を予測したり、被害の低減を図る上でも、大変重要です。

### ■ 地質の日制定の社会的背景 ■

現在、地質への一般の関心は残念ながら高いとは言えません。専門とする教員がいないために地質を十分に学ぶことのできない高校が多くあります。小学校・中学校でも、教員が地質をあまり学んでいないために教えることさえままならなくなっていると言われていています。しかし、私たち人間が地球上で、安全安心で豊かな生活をしていくためにも、足下の身近な地質について知っておくことが必要です。地質の日事業推進委員会を初めとして、地質に携わる者は、一般の方々が、身近な地質についてぜひ興味を持って頂いて、少しでも理解が進むことを期待しています。

### ■ 地質の日制定の経緯 ■

「地質」の記念日を作ろうという動きは2000年頃から当時の通産省地質調査所でありました（地質ニュース547号など）。その後、しばらく動きが途絶えていましたが、2006年8月に茨城大学理学部の天野一男教授が「地質の日」制定の提案を学会の広報誌（地質学会 News, 2006、8月号）に寄稿したことを契機に、再び「地質の日」制定の気運が高まり、昨年2007年3月13日に地質に関係した学会・機関\*2が発起人となって「地質の日」を定めました。

### ■ 地質の日の由来 ■

“お雇い外国人”地質学者ライマン(米国)らによって、明治9年(1876)5月10日に日本初の広域的な地質図「日本蝦夷地質要略之図」が刊行されたことにちなみます。明治の初期にわずか数年で、地質図を作成したのには驚かされます。なお、明治11年(1878)5月10日には、初めて地質の調査が国の事業の中に位置づけられたということもあり、地質には縁の深い日です。

### ■ 地質の日事業の内容 ■

記念事業は、各地域の博物館等を中心として、地質図、化石、鉱物、地震、火山等をテーマにした展示やイベントはもちろん、記念出版物の刊行、地質学の新たな展開として期待されているジオパークをテーマにした地質の見学会などが開かれます。この機会に地域の人々が地質についての理解を深めてくださることを期待しています、

### ■ 「地質の日」事業全般の問い合わせ先 ■

地質の日事業推進委員会事務局（産総研地質調査総合センター） 担当 齋藤、今西

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1 中央第7

TEL : 029-861-3836 FAX : 029-861-3672

E-mail : geologyday-jimu@m.aist.go.jp

---

### 【本件プレス発表】

日本地質学会事務局

〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-8-15 井桁ビル6階

TEL : 03-5823-1150 (代表) FAX : 03-5823-1156

E-mail : main@geosociety.jp